

～カワヒバリガイ駆除のため～

つくし湖における生息域全体調査

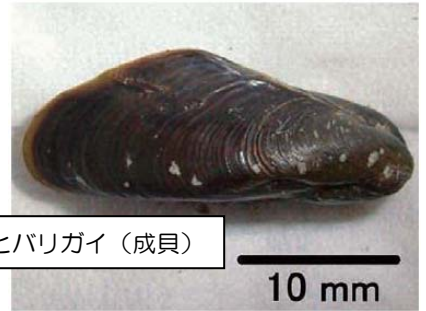
令和元年 10 月 7 日に、つくし湖（南椎尾調整池）においてカワヒバリガイの生息域全体調査を行いました。

カワヒバリガイとは、環境省が指定する特定外来生物で中国南部や朝鮮半島原産の淡水付着性二枚貝です。殻長は成貝で 30mm 程度の小型の貝であり、日本における寿命は 3 年程度とされています。また、足糸という繊維状物質を分泌して硬い基盤（岩、コンクリート、鉄等）に着生する習性があります。

今回、つくし湖では、コンクリート構造物、石の敷設箇所、砂地や泥地などで、どのくらいの密度で生息しているのか、30 数名が湖全体の 9 箇所でサンプリング調査を実施しました。

その結果、生息域は、既に湖全体に及んでおり、予想したとおり、石やコンクリートなどの硬いところにはおびただしい数が付着していましたが、砂や泥の部分に全くいませんでした。

今後も、全面駆除に向けた各種調査の継続や有効な対策を施行していかなければならない状況が再確認出来ました。



カワヒバリガイ（成貝）

10 mm



茨城県農地整備課、県西農林事務所、企業局水質管理センター、生物多様性センター、霞ヶ浦用水土地改良区、農研機構及び電力中央研究所から 30 数名が参加



死貝の腐敗臭にもめげず、黙々と数を計測中



枠（50 cm角コドラート）内の貝を採取



斜面でも、ひたすら手作業で貝を計数